

復興庁「福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議」ご意見

- (1) 最初にいただいた「福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議」論点(案)(いわゆる、当時の資料6)の「1 国際教育研究拠点の目的・機能をどう考えるか」に照らして考えると、相当の覚悟と努力がないと実現は困難であると考えています。特に、「魅力ある浜通り地域を創出すること」、「定住人口の拡大(特に若い世代)を図ること」という最終的な地域の姿ですが、それを「新産業を創出すること」、「世界への貢献を進めること」で達成するということだと理解しています。
- (2) 以上を、研究機関あるいは大学(大学院)という組織で成し遂げるように知恵を集めることがこの有識者会議の役割だと捉えています。分野は、「多分野にわたる研究」と「その相乗効果」となっています。
- (3) そこで、「研究」ということの捉え方が問題となってきます。どのような分野の研究であれ、研究となれば、特に研究成果については、世界初であり世界の最先端でなければ認められません。これは研究に携わる者の一般的な共通認識でしょう。座長からご指摘いただいた、「国際と名付ける意味は世界一でなければならぬ」という意味であるという点から考えた場合、世界初であり世界の最先端の数々の研究の中で比べるすべも困難ではありますが、何かの基準で世界一でなければなりません。この基準を明快にしなければなりません。たとえば、ノーベル賞に値する研究といった具合にです。もしそのようなことを考えられるのであれば、基礎と応用研究に加えて社会実装(たとえば薬の開発など)のためまでの研究が必要であり、相当の年月と費用を覚悟しなければなりません。その際、研究分野を選別することは至難です。多種多様な研究があつてこそ、その中から秀逸な研究が生まれてくるからです。また、研究目標を定めてノーベル賞を狙うといったことは困難です。多くのノーベル賞を受賞した研究者は、セレンディピティ(serendipity)こそが重要であったと述べています。つまり、狙ったこと、すなわち推定が可能なこと程度では真の秀逸な研究にはならないということです。世界の様々な分野の研究者はこのような意味で日々研究に励んでいるはずです。
- (4) 「研究」ということを、社会還元に資する研究と限定すると考え方はいくらか容易になります。さらに社会還元をもう一步具体的に踏み込んで産業創出と考えればより分かりやすくなるのではないのでしょうか。その際の世界一の基準も、少なくともある産業分野で世界一のシェアを持つ、あるいは世界一の売上を上げる、といった観点で理解することができます。廃炉研究であれ、環境に関する研究であれ、新しい農業に関する研究であれ、健康科学・医学であれ、目標の設定はかなり容易になります。
- (5) こうした観点に加えて、「教育」という観点も挙げられていますので、この点についても考察しておく必要があります。大学(大学院)という教育研究組織に

- においては、座学であれ、研究を通じた教育であれ、最終的には学位授与ということに繋がらなければなりません。学生には、基礎、応用、開発の研究において真に独自性を発揮し、自力で課題を解決できる能力を涵養するという過程を経た上での学位授与です。研究組織においては、教育というよりは人材育成という表現のほうが適切ではないかと考えます。ここにおいては、学位授与ではなく、目的にあった研究を遂行するためのトレーニングということになります。
- (6) このように考えてくると、「福島浜通り地域の国際教育研究拠点」に馴染むのは、社会還元／産業創出を目指す研究を行う研究組織を創出するということではないでしょうか。すなわち、「福島浜通り地域の国際研究人材育成拠点」だとすれば、大学（大学院）を設置するという考え方は捨てたほうがよいと思われます。大学（大学院）となれば、最高級の専門は当然としても、学士であれ、修士であれ、博士であれ、それらにふさわしい専門以外の教育も必要となります。費用や期間のことを考えても、同様の結論になるように思われます。
- (7) そのようなことだとすれば、重要なことは研究課題を選抜して、プロジェクトを立てて、特定分野の研究者を糾合できる超大型プロジェクトが展開できる研究場所を設置するなどして、プラットフォームを設立するという手立てが考えられます。そう考えると、昨日の会議で様々な委員や有識者の先生方が、組織論（研究組織なのか大学なのか？その際、どのような組織構成とするか？など）ではなく、ご自分の周辺分野の現況の説明をされたことが理解できます。
- (8) さらに、この超大型プロジェクトは旧来型ではなく完全なオープンイノベーション型でなければ新時代にはふさわしくないと考えられます。すなわち、ニーズ（解かなければならない課題＝プロジェクト）を実現するために、多様な分野の研究者がアイデアを持ち込み、研究を行う環境が必要であり、特にこれを実現させるための政府、産業界からの潤沢な基金が必要であり、同時に基金を出す側と戦えるトップ人材が必要となります。大型のスタートアップに似ているかもしれません。
- (9) 加えて、プロジェクトは「福島浜通り地域」にふさわしい、というよりはこの地域でなければできないことを基盤に持っていなければなりません。また、人材が定着できる産業に繋がっていく必要があります。数名から十数名の優れた研究者とそのご家族だけでは、定住人口拡充には繋がりません。そういった研究者を支える研究者と技術者、あるいは事務方が2-3百人いても、大した定住人口拡充にはなりません。十分な雇用を生む産業に仕上げるのが重要です。あるいは、定住人口はそこそこであっても、恒常的に人が、とくに若い人が集まるように仕組むことかもしれません。また、定住にふさわしい街づくりも重要です。そういう意味では大学という選択肢は魅力的です。

永田恭介（筑波大学長）